市公連だより

第３１号
発行者
熊谷市
公民館連合会
会長 山川幸男
事務局
熊谷市
中央公民館
電話 048-523-0895

公民館紹介

地域住民の学び、交流と頼れる場をめざして

玉井公民館長　渡辺　正

玉井公民館は、昭和四十五年に旧玉井村役場跡地を利用して竣工され、以降地域公民館として、玉井地域の人達の学習の場、交流の場として親しまれています。

玉井は、県北部利根川と荒川の間にあり、旧中山道が貫き、ＪＲ高崎線を挟み広大な地域に、久保島第一、久保島第二、高柳、県営団地、玉井、玉井中央、玉井在家という七自治会があり、約四三〇〇戸、一万人の住民が暮らしています。関連地域が広大なため住民も多く、地域に根差した伝統的な行事も多彩で、地域性が強く残る土地柄です。

公民館として様々な事業を行っていますが、特に大きな行事が地域全体での敬老会です。地元連合自治会や老人会と協力して、かなり前から準備をスタートし、地域内の小学校体育館を借用しての一大イベントになります。

今年度の玉井地区敬老会該当者は、一五〇〇名を超えることが予想され（地区敬老会としては熊谷市内最多人員）、準備も大変ですが、今年度はコロナ感染拡大の為、各自治会単位での開催になりそうです。公民館では毎年「白樺学級講座」を開催し、百名以上の人達が学んでいますが、今年はコロナの影響で小規模な講座（20名位）として、タイムリー講座、ハッピー講座、ライフケア講座を計画中です。他館と同様公民館利用者の高齢化が進み、公民館利用サークル活動の数も減少しつつあり、現在は二十グループが活動しています。

他方、先般実施された、コロナワクチン予約サポートの際は、家族の介添の必要な人、杖をつきやっと歩ける人達を含む一五〇名の高齢者が、早朝五時前から公民館の入口に並び、新堀公民館（新堀自治会を含む）から支援及び地元自治会連合会の人達の協力を得て、総勢20名での尽力で百二十名の人達の予約を取得することができました。

予約票を手に、深々と頭を下げ、笑顔を浮かべ、帰る人達を見た時、公民館はやはり地域における弱者や高齢者の人達にとって、集い、学び、交流の場だけでなく、必要不可欠な最後の砦でもあるとの思いを強く感じています。

タイムリー学級講座

渋沢栄一記念館解説員による講義

明るい公民館をめざして

肥塚公民館長　風間艶子

肥塚は熊谷市のほぼ中心に位置し、肥塚・中央東・円光・グリーンタウン・雀宮・新里の六地区からなる、約二三〇〇世帯の地域です。地区の中央には熊谷バイパスが通り、交通の要となっています。

肥塚公民館は昭和二十四年に設立された公民館です。現在の建物は昭和五十七年に竣工、鉄筋二階建てのホール・小会議室・和室・事務室からなる施設です。当館を利用する学習グループは現在二十六あり、それぞれが定期的に有意義な時間を過ごし、学習に励んでいます。

公民館の主催事業として年十二回開催の「ふれあい教室」を実施し、昨年度は熊谷阿うんの会の皆様による、荻野吟子の紙芝居やフレイル予防（虚弱、老化予防）の講座など参加者は熱心に聴講していました。

また、「趣味の教室・体験講座」では、草木染のストール作りやお正月の寄せ植えが好評でした。特筆すべき事は令和元年度より、菊花作り教室を開催し、十一月、めぬま菊花大会に参加、昨年度も受講者の丹精込めて育てた菊花が妻沼聖天山の山門に出展されました。

例年ですと、大きな行事としては学習発表会が盛大に開催され、演技の部（十一月）では、民謡・社交ダンス・コーラス・太極拳・体操・オカリナ・大正琴などのサークルが一年間練習した成果を発表し、作品の部（一月）では、書道・水墨画・写真・きりえ、その他趣味の教室で作成した作品や、自治会・婦人会・長寿会・こども会の皆さんの作品を展示し、多くの方にご来館頂いておりました。その他、グラウンドゴルフ大会やターゲットバードゴルフ大会、年二回の館外バス研修なども開催しておりましたが、新型コロナウイルス感染防止のため、中止や延期を余儀なくされる事となりました。そのような中でもできる限りの事業を企画し、地区の皆様が関心を寄せて下さることは職員全員の励みとなっております。一日も早く平常通りの活動ができることを祈るばかりです。

当館のスローガンとしている「元気で楽しく集う公民館」を目指し、地域の皆様に愛される、憩いの場になるよう事業に取り組んでいきたいと考えております。

妻沼聖天山山門を彩る受講者の菊花

《「暑くない」そんな人ほど　熱中症　》

《エアコンを　上手に使い　健康管理》

明るい未来に向かって

熊谷市公民館連合会会長　山川　幸男

五月の連休明けから、熊谷市でもコロナワクチンの本格接種が始まり、先の見えなかったコロナ禍に少しずつ明るい兆しが見えてきました。会員の皆様におかれましては、昨年来から公民館がいろいろな制限を受ける中で創意工夫をし、活動を継続していただいたことに改めて厚く御礼申し上げます。

さて、熊谷市の公共施設アセットマネジメント計画が本格的に動き出しました。日本の人口が減少する一方で高齢化がますます進み、多様化する社会の変化に柔軟に対応する施策として、公民館も含めた市内公共施設の統合は避けて通れないものと考えます。

しかしながら社会がどの様に変化しても、公民館の役割である「地域づくり」「人づくり」「つながりづくり」が変わることはありません。社会教育の場として、今後も継続的な役割を担う「新しい公民館のあるべき姿」を会員の皆様全員が思い描く時期が来ています。

まだまだコロナ禍が予断を許さない状況で、将来の公民館像を模索することはいろいろな苦労を伴いますが、コロナ禍がいずれは落ち着く明るい未来に向かって、そして地域の皆様に末永く笑顔を提供できる「明るい公民館づくり」を目指して、公民館相互の情報共有を図り、柔軟な発想と前向きな姿勢で取り組んでまいりたいと存じます。

終わりに、時節柄、会員皆様のご健勝ご活躍をお祈り申し上げ、ご挨拶といたします。

地域活動の中心として

熊谷市教育委員会教育長　野原　晃

熊谷市公民館連合会の皆様には、日頃から公民館活動の推進に御尽力をいただき、誠にありがとうございます。

各公民館におかれましては、教育学術及び文化に関する各種事業を行うことで、地域住民の方々の教養の向上、健康増進、並びに社会福祉の増進等、多大な貢献をいただいております。

さて、新型コロナウイルス感染拡大は全国各地でワクチン接種が開始されたとはいえ、まだまだ予断を許さない状況にあります。公民館も同様にコロナ禍での制約を受け、引き続き不便な公民館運営を余儀なくされると思います。

コロナ禍での「新しい生活様式」は感染防止の基本となりますが、一方で人と人との会話・交流を抑制する面もあり、幅広い世代で人と人とのつながりの大切さを改めて感じている方も多いと思います。

公民館の役割は、「集会と活用（つどう）」「学習と創造（まなぶ）」「総合と調整（むすぶ）」とされています。公民館のこうした人と人とをつなぐという大切な役割は、この先も変わることはないでしょう。

今後とも、生涯学習の推進や人づくり、地域づくりの中心的存在として、引き続き感染防止対策を講じながら、地域の課題解決に向けた主体的な学習・実践活動に結びつけた公民館活動をお願いします。

結びに、時節柄、会員の皆様の御健勝をお祈り申し上げますとともに、熊谷市公民館連合会の益々の発展を祈念いたしまして、ご挨拶といたします。

新任館長あいさつ

妻沼中央公民館長
堀越　利幸

四月一日付けで、妻沼中央公民館長に就任いたしました。

妻沼中央公民館は、妻沼地域の中央館として、けやき大学をはじめ各種生涯学習講座や、学習グループの学び・集いの場として利用されるとともに、併設の大ホールは様々なイベント会場として、多くの方にご利用いただいてまいりました。しかし、昨年から新型コロナウイルス感染防止のため、施設の休館や現在も利用人数や利用時間の制限、活動の自粛を求めての運営となっております。

こういった中でも、感染防止策を徹底しての施設の貸出しや、公民館は「始めてみたい！」の応援団というテーマで、各種生涯学習講座や研修会、文化祭等を計画しました。

今後も新型コロナウイルスの感染状況によりますが、利用される方々の安全と健康を第一に考え、より良い公民館運営を目指してまいります。

退任館長あいさつ

前妻沼中央公民館長
関口　ゆかり

妻沼中央公民館長として一年間大変お世話になりました。

妻沼中央公民館は、誰もが気軽に足を運んでいただける公民館として、多くの皆様にご利用いただき、活発な活動が展開されております。

しかし、昨年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため休館や新しい生活様式により利用制限を余儀なくされました。妻沼文化祭をはじめ多くの生涯学習事業が中止となり、また、長期の活動休止が続くことで会員が減少し、解散する学習グループもありました。

人生百年時代を迎え、コロナ禍という未曽有の社会課題に直面する中にあって、心身の健康を保ち、心豊かに、日々を重ねるには人と人との絆が一層重要となります。公民館は地域コミュニティの拠点として、益々重要な役割を担うべきだと改めて実感しました。

最後になりますが、市公連及び各公民館の益々の御発展を祈念し、退任の挨拶とさせていただきます。

定期総会報告

去る五月十四日、妻沼中央公民館において、令和三年度総会が行なわれました。当日は、コロナ禍での開催のため縮小開催となりましたが、富岡熊谷市長及び野原教育長から来賓の御挨拶をいただきました。

山川会長あいさつ

議事として、令和２年度事業報告、決算報告並びに監査報告、令和３年度事業計画、予算等が審議され承認されました。

なお、令和３年度の役員は次のとおりです。

会　長　山川　幸男（奈良）
副会長　吉野　武治（久下）
副会長　渡辺　正（玉井）
副会長　荻野　俊行（秦）
ブロック長・監事
第一　河西　昌美（箱田）
第二　前澤　保雄（星宮）
第三　秋山　宏之（大麻生）
第四　細川　末廣（桜木）
第五　新井　弘一（大原）
第六　新井　英一（太田）
監事　田代　博也（本町）
監事　山岸　保治（大里）
相談役　橋本　裕美（中央）
幹事　堀口　雅美（中央）
幹事　島田　信秋（中央）
幹事　藤﨑　智子（中央）

市長あいさつ

大里地区公民館連合会及び埼玉県公民館連絡協議会の総会については、書面表決となりました。

それぞれの総会で承認された事業計画・予算のもとで、公民館の振興に向けて取り組んでまいりますので、皆様の御協力をお願いいたします。

《　熱中症　未然に防ぐ　ヒンヤリハット　》

ふるさとに学ぶ

「残したい地域の財産」

奈良公民館主事　森田　和弥

熊谷市下奈良葉草に火防神社がある。

この火防神社の建立は、宝永４年（１７０７）と言われているから、３００年以上前になる。この地に薬師堂があり、堂主の善久老師は徳の高いお方で、村人から尊敬されていた。

火坊神社　お堂

ある時、堂に火災が起き念力で火を鎮め消した。このことが近辺に伝わり、老師の名は益々広まっていった。老師は、元禄十五年三月十二日（１７０２）八十歳の高齢で亡くなったと言われているが、いまわの際に、「私は生地、上州鍋谷村（群馬県邑楽郡千代田町鍋谷）に帰るが、お世話になった村人の為に火の守りをします。私の霊魂は必ず村人を守護します。」と言って息を引きとったと伝えられている。

《 降り立てば　ミストが迎える　熊谷市 》

この老師を敬慕した村人は、薬師堂の隣に祠堂を建て、善久老師を火防の神として祭祀し、毎年三月十二日を「火防さま」の縁日として火防の護符を授与した。戦前までは、露天がならび、芝居がかかり、たいへんにぎわった。

現在でもこの集落各家の台所には、長さ40㎝もある【火防之御牘瑠璃光山】の護符（左写真）が貼られ、この地の火難を防ぐ鍋谷の坊さまの偉徳を語り、四月十二日を本祭りとし、毎月十二日には神酒・供物を供えてお百度参りをし、火防の祈願を道上・道下・前新田箱根の三地区で年番を決め、信仰は続いている。

今はこの場所が公園と一体整備され、毎年7月末の土曜日に、「葉草夏祭り」を開催（48回実施）し、子ども神輿が地域を練り歩き、スイカ割り等の各種ゲームやバザー券による焼きそば等、地域の交流の場として重要なところになっている。

また、この地域には、土地改良（福川右岸土地改良区）と新奈良川第一調節池建設にあわせて、調節池周囲に64本の桜が植樹されている。平成六年に、調節池に桜を植樹し花見をしようとの趣意で、多くの有志からの浄財により植樹を行い市へ寄付をした。

今では、「下奈良桜の園」として、住民のほか周辺からも花見に訪れ、地域の名所になっている。平成最後の平成三十一年四月七日には、桜の植樹25周年を記念し、式典が盛大に開催され、桜の植樹に至る歴史的背景を改めて振り返ったところである。

「長井斎藤別当実盛」

長井公民館長　尾高　利夫

長井公民館は、田畑や住宅の中にあり、市立武道館と長井小学校に隣接している。

歴史を遡れば、昔の妻沼地域は、利根川と荒川の乱流による過疎地帯だった。地形が名称となり、「長井庄」と称した。平安末期には武士の台頭となり、西城に、藤原道宗が館（長井城・西城）を構え土着した。その後、斎藤氏が長井庄を支配するようになり、道宗の息子助高は成田に転出し成田氏の祖となった。

長井斎藤氏は北陸から来た河合斎藤助宗の息子右馬允実遠に始まる。「前九年の役」が始まり、陸奥守源頼義軍に実遠が参加し、実遠の軍功を賞した頼義が、源氏の庄園となっていた長井庄を実遠に与えた。長井斎藤氏の発祥である。実遠は支配者になり、一応西城に居住したが、この館は長井庄の片隅で支配には不適と考え、大我井（妻沼小の西）の台地に館を構えた。

斎藤一族は北陸に分派し繁栄していたが、越前在住の河合斎藤次郎則盛に男子出生、助房と命名した（一一二六）幼少の頃より胆力がすわり、弓馬刀などの術に勝れた才能を表していた。実遠の子息実直から養子にと望まれ、長井庄に送られた。そして、養父と実父から一字ずつもらって「実盛」と称した。

久寿二年（一一五五）京の源義朝と武蔵比企菅谷の帯刀先生義賢の間に不和が生じ、義朝は長子義平に命じて義賢を討ちとらせた。しかし、妻の小枝御前と二歳の駒王（後の木曽義仲）は安否不明。畠山庄司重能に見つけたら即刻首をはねよと命じた。重能は二人を見つけ出したが殺すのは惜しい、助けてやりたい、斎藤実盛ならよい分別を授けてくれるだろうと庇護を頼んだ。実盛は快諾した。木曽山中の兼遠に託した。

平治の乱で源氏は破れたが、実盛は平家に就く条件で、長井庄は安堵された。

駒王は木曽の山で成長し、木曽義仲になった。久寿二年平家による義仲追討軍に実盛は参加した。信濃の住人、手塚太郎光盛は実盛の首をはね、義仲の前に据えた。黒髪を洗うと白髪になり実盛だと知り義仲も兵とともに泣いた。七十三歳だった。

※八ツ口にある長昌寺の境内には、実盛が長井庄に館を構えた折、鬼門除けの祈願で植えた樹齢八百五十年の椎の木が、地域住民を見守っている。

学級講座紹介

趣味を見つけて楽しみながら健康へ

成田公民館長
龍前　英司

成田公民館では生涯学習講座として「いきいきふれあい学級」を開設し、「公民館だより」にて会員を募り、申し込み順に定員になり次第開講しており、今年度は十講座と二回の館外研修を予定しています。

コロナ禍前に人気のあった講座の内容は「健康手芸・クラフトテープで作るかごバッグ講座」で作品見本を見て、早くも定員になり家族や友達にもプレゼントしようと指をしっかり動かして配色を考えながら頭を使って楽しい時間を過ごしていました。作品は成田・熊谷市公民館まつりに展示し、新しい形のバッグに挑戦するため講座も再度延長して開く等意欲満々の活動が出来ました。

これからの学習講座をどのように企画するかについては大きなテーマであるが地域の老若男女・幅広い世代に参加いただける内容にする必要があると思います。

地域住民の方々の様々な学習等の要望に応え、健康で豊かな生活づくりや地域の絆づくり・人づくりに貢献するためには少子高齢化をはじめ社会情勢、生活環境も変化し、一人ひとりが求める学習内容は多様化し、地域を取り巻く諸課題も多様化しており当館も時代のニーズにあった内容が求められている。

残念なことではあるが地域社会の中での人間同士の関係やつながりが時代とともに薄れてきている傾向にあり、具体的には自治会加入率の低下、子ども会や老人会の解散が増えている現実があります。

地域のなかで人と人とをつなげていく役割がある公民館として、地域課題についても意識的に取り上げていく必要があると感じます。

生涯学習の講座は参加者があって成立するものであり、地域の歴史や伝統、健康問題、趣味のこと、地域課題等の幅広い分野があり各職員が常にアンテナを高くして地域の人々の関心が何にあるか探り、また他館の動向も踏まえながらできるだけ多数の地域の方々が積極的に参加できる講座の開催に努めます。

日光東照宮

《おやつには　涼しさを呼ぶ　夏野菜　》

地域の人達を講師に迎える

荒川公民館長
大澤　勇

昨年の5月のコロナ休館中、館事務室で職員5人揃った月曜ミーティングの席。館長2年目の私から「提案2：地域の人達を講師に迎える」というタイトルのプリント1枚を説明させて頂いた。内容的にはお察し付くと思います。しかし「新米館長がまた勝手なことを言い出したな？」と思われていたかも知れないが、気にせず熱く説明し、反対意見も無く終えました。その後、昨年の六月八日に急にコロナ開館となり、第1回目の公民館講座開催が8月になるか？というムードの中で、荒川区祭総代長を平成二十九年に務めた江原氏が講座を引き受けてくれ話はトントン拍子に進み、テーマも「うちわ祭のおもしろ話」と決定。祭自体は中止になったのですが、代わって元気と活力を地域にもたらそうと、本来の祭期間中の七月二十一日に講座日が決まったのでした。

その後は講演用の動画、そして各町山車のお囃子の音集めなどは職員が分担し、又、新しいプロジェクターも準備し、慌ただしく時間が過ぎ講座当日を迎えました。朝から問い合わせの電話が鳴り関心の高さを強くうかがえ、ホールの入場定員を気にしながらの実にユニークな内容の講演となりました。

七月三十日には「荒川区における台風19号の教訓」と題して荒川自治会連合会の野口会長と地元の下山・気象予報士が講師となって、住民アンケート結果も示され高い関心を集めた講座となり、南小校長さんや地元・腰塚市議さんの聴講もありました。

八月二十七日には地元の福島造花店にお願いして「元気なうちにエンディング・ノート」というテーマで丁寧な講演が好評でした。

このように昨年の公民館講座の初めの3回（全13回。その内の年明けの3回はコロナで中止）の講師は地元から迎えられました。外部から講師をお迎えする必要性もありますが、しかし、カルチャーセンター的になりがちで、他方、地元から専門性の高い方々へお願いする講座では、また一味違って、会場の柔らかさと公民館らしい一体感を感じられるのでした。

地元講師による講座風景

歴史探訪

熊谷と渋沢栄一

熊谷市立江南文化財センター　山下　祐樹

２０２１年（令和３年）、現在の深谷市出身で近代日本経済の父と称えられる渋沢栄一に関連した様々な情報発信が行われている。ＮＨＫ大河ドラマ「青天を衝け」の放映を契機に、渋沢栄一や尾高惇忠、渋沢家の人々の生涯に注目が集まっている。

　この機運に合わせて、熊谷市教育委員会では、郷土熊谷と渋沢の関わりを紹介する講演会などを開催している。

妻沼聖天山での講演会

妻沼聖天山と渋沢栄一

　渋沢栄一は、自身の回顧録や筆記録に、妻沼聖天山を来訪し、食事したことや、父の市郎右衛門と再会したことなどを記している。

　妻沼聖天山には、渋沢栄一の伯父・三代渋沢宗助の子、四代宗助長徳が慶応２年（１８６６）に奉納した石燈籠が残されている（左写真）。

現在、妻沼聖天山の西参道入口に置かれている燈篭の一基には、「武蔵榛沢郡血洗島　渋沢宗助　慶応二年丙寅秋九月」と刻まれている。同年、8月、慶喜が徳川15代将軍に就任し、一橋家に仕官していた渋沢栄一は、同年12月の幕臣の職を任じられていることから、一家繁栄の祈願などを込めた寄進と考えられる。

　また、熊谷宿と石原村から秩父へと連結する秩父往還（秩父街道）の基点に置かれている「秩父道しるべ」（埼玉県指定文化財）のうち、秩父・長瀞の「宝登山」への道を示す「寶登山道」と刻まれた道標は、弘化４年（１８４７）に三代の渋沢宗助ら血洗島の有力者によって建立されたものである。

根岸家・長島家と渋沢栄一

　幕末から明治時代にかけて活躍した大里地域の根岸友山・武香の親子は、渋沢栄一と尾高惇忠との交流があり、特に武香は渋沢とともに熊谷銀行の設立へと先導したほか、地域のインフラ整備計画をなど多様な協働を進めた記録が残されている。

　一方で、熊谷市小八林の長島家は、江戸時代中期以降の商家として知られ、大正時代、当主の長島甚助（１８６４～１９４１）は、竹井澹如や渋沢栄一らと協力し、熊谷周辺の製糸産業などを進めた。長男の長島恭助（１９01～1992）は、県立熊谷中学校（現・熊谷高等学校）、山口高等商業学校（現・山口大学）などを経て、渋沢が設立に関わった武州銀行に入行。その後、埼玉銀行（現・埼玉りそな銀行）頭取・会長などを歴任し埼玉県経済界の発展に貢献したほか、渋沢の影響を受け、育成事業に尽力した。邸宅の長島記念館には渋沢栄一が直筆した掛軸や額（前掲写真）があり、年間を通じて一般公開されている。

　大正４年（１９１５）、渋沢は川越での講演会で、熊谷の地域を文化と経済が融合した地として称賛している。渋沢を通じて郷土の歴史に光を当てる好機が到来している。

《 エコカーも　使いすぎれば　火の車 》

編集後記

　市公連だより「第31号」を発行するにあたり、原稿を寄せて下さった関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

　コロナ禍の状況もあり寄稿も関連内容が多くなりました。

　コロナワクチン接種も大分進み普通の生活への視野も見えてきており、もう少し皆様頑張りましょう！